

通学路の 危険箇所と安全対策

安心して歩ける道への取り組み

吉岡耀子

「あいさつの大きな声がひびく道」

第58回「道路ふれあい月間」代表標語・小学生の部

コンテンツ

I 千葉県八街市 通学児童の交通事故

起きてしまった事故への対応

現地の通学路における安全対策

ガードレールの設置はなぜ難しい？

II 合同点検、東京都C市の例

継続点検で「今できること」を積み上げ

難易度の高い対策を先に伝えたい

子供の飛び出しをどう防ぐ？

III 街路事業コンクールにおける対策例

新たなまちづくりの中の通学路

その後の街の変化に対応するには？

I 千葉県八街市 通学児童の交通事故

2021年

6月28日 八街市の通学路で下校中の朝陽小学校生5名がトラックにはねられて死傷

7月9日 全国、通学路危険箇所の点検を要請

9月30日 危険箇所を取りまとめ

- ・事故から3か月の短い期間で行われた
- ・全国7万6404箇所が報告された

2022年

9月 順次、改善実施

朝陽小学校、下校時の様子

2022.9.28

1、校門前の見守り活動



写真©吉岡

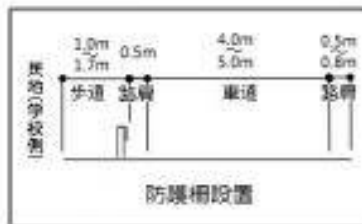
2、校門を出てから(交通量の多い道、狭い道)



学校～事故現場の道路改善

八街市立朝陽小学校付近 交通安全対策

■主な整備内容イメージ



※詳細な設置位置等は沿道の方々等との調整により確定します。
※車道幅員5.0mは朝陽小学校前の概ね200mの範囲。



1、 スクールバスと ガードレール

- ・スクールバス、
登下校各2便
- ・ガードレール2km



写真©吉岡

2、路面標示で速度を落とす



写真©吉岡

3、反射材ボラード、ハンプ、狭窄

ハンプ



反射材ボラード





事故現場を歩いて

- ・学校、父母、市民の悲願が伝わってきた

改善工事は2021年9月～2022年3月

- 短期間で多くの改善がなされた
- 学校から事故現場の先まで、ガードレールに守られ安心して歩けた。
- 路面標示、道路反対側の白線などにより、行政や市民の目が届いている印象。不注意な運転を防ぐ効果大か。
- 広い道路から入る通過交通が難題（狭窄で防ぐ）
- →ガードレールをそれまで設置できなかった理由は？ 今回踏み切れたなら他でもできるか？

Ⅱ 合同点検、東京都C市の例

- 平成24年(2012)4月、京都府亀山市で登校児童の列に車、10人死傷。→全国で一斉点検。
- これを受けて東京都C市では平成28年に合同点検開始。
- 市内全20校を3区分して順次調査 →各校区は3年毎の調査となり、前回と異なる箇所を点検する
- ①保護者が学校へ点検箇所の要望を出す。
- ②(市道の場合)学校、PTA連合会、教育委員会、C警察、市道路管理課により、点検箇所を絞りこみ、合同点検。
- ③その場で改善策を協議、1年以内でできることを優先して決定する。

① 地下道の通学路

危険箇所

「暗い、自転車でスピードを出して通る人が多い」

→

安全対策

地上の出入り口、通路内自転車置き場出入り口に柵、
路面塗装、標示、ポスター



写真©吉岡



② 校門前

危険箇所

「道路が曲がりくねり見通しが悪い」「歩道が狭く歩けない」

→安全対策

ガードパイプ 増設(A校)



危険箇所 「車両が入り込む」

→安全対策

取り外し可能なボラードを多数設置(B校)

危険箇所「交通量が多いのに道路が狭い」

→安全対策 路面塗装 (C校)



③ 横断歩道

危険箇所: 子供から

塀と植栽により、右からの車は見えない



→安全対策

右車道側に標識、路面塗装、路面標示、看板

危険箇所: 車から

塀の向こうの通学路が見えない



写真© 吉岡

飛び出しへの対策



写真©吉岡



岡山大学大学院 環境生命科学研究科 教授 橋本成仁
「子供の視点から見た飛び出し事故対策」
(2020年 財団法人タカタ財団 助成研究論文)より

合同点検の危険箇所を歩いて

- ・通学路の見守り活動が充実していた。

校門付近だけでなく、途中の横断歩道や交差点でも保護者の活動が見られる。

- ・すぐにできる対策を優先しているので、標識の設置、路面標示、路面塗装の塗り直しなどが多い。

- ・その中では、歩道部分の緑色塗装は面積が広くわかりやすい。狭い道路なりに歩行者と車がそれぞれ注意して、効果が大きい。

- ・ボラードは場所を取らず、比較的取り付けやすく、車から注意を向けやすい

- ・狭い道路は危険だが、ガードレールの設置が難しいという。悩ましい矛盾。八街市の例のように車道幅を狭めるなど、工夫はできないか。

- ・信号の設置基準は一般にはわかりにくい。

Ⅲ 街路事業コンクールに おける改善例

第20回特別賞
弘前市道路改善
事業（青森県）



第34回特別賞 JR御厨駅南北自由通路整備事業 (静岡県磐田市)



- ・JR東海道線に御厨駅が設置されて、南北分断が解消。
- ・住民の30年越しの夢がかない、住民は交代で清掃と見守り活動。
- ・南北自由通路は、**通学路**としても利用されている。



第22回大臣賞 調布保谷線(東京都調布市)



- ・整備された道路の自転車通行帯には、自転車用の信号がない箇所も。
- ・時間帯によっては、スピードを上げて走る自転車も多い。
- ・信号設置は条件にあわず、見送り。

写真・左2点©吉岡

- ・近年住宅地が広がり、児童が増加した。
- ・児童の通学は見守り活動に守られているが、自転車との接触を危ぶむ声も。



まとめ 安全対策をまちづくりに生かすには

- 通学路は子供の夢を育てる場。 ゆったり歩ける道を
- 地元の住民の目と声が、安全を守り育てる
- 歩道、信号、ガードレールは設置条件が難しいので、早い時点で検討できるとよい
- 街は変化する、事業後にも観察と対応を

ご清聴ありがとうございました